

英語コーパス学会 2016 年度春季ワークショップ・講演会

日時：2016 年 4 月 23 日（土）午後 2:00-5:00

会場：大阪大学大学院言語文化研究科 A 棟 2 階大会議室（豊中キャンパス）

（大阪府豊中市待兼山町 1-8 キャンパスマップ）

参加費：会員無料（非会員：¥1,000）

第 1 部 ワークショップ（14:00-15:30）

今尾康裕先生（大阪大学言語文化研究科）

演題：CasualConc—これからのコーパス分析は Mac で!

昨年、大幅なアップデートを果たした CasualConc には、それまでのバージョンで利用できた KWIC、単語・n-gram リスト作成、コロケーション、単語クラスター検索、ファイルごとの単語頻度表作成などの基本機能に加えて、頻度データを統計環境 R で処理して多変量分析でのグラフを作成する機能や特徴語の抽出機能などを追加しました。これまでは手間のかかった頻度集計からのデータ整形を経て統計ソフトで処理する一連の工程を簡単に試すことができ、研究初期段階の探索的なデータの可視化を可能にします。さらに本格的に分析をするために、処理に利用したデータと R のスクリプトを保存して調整したり再利用したりすることが可能になっています。

この講習会では、コーパスファイルを読み込んで基本的な処理をするところから、コーパスファイルの管理や頻度集計後の分析まで、実際のデータを使いながらデモンストレーションをしていきます。Mac をお持ちいただければ、一緒に処理をしていく中で、CasualConc の使い方に慣れていただければと思います。

講師：今尾康裕先生

略歴：Ph.D (Applied Linguistics, UCLA), MA (TESOL, SFSU)

専門は、言語テスト(ライティング)。学習者ライティングコーパスを利用した研究をしつつ、CasualConc や文字起こしアプリケーション CasualTranscriber、R の GUI フロントエンド MacR など、Mac 用の文字列処理を中心としたアプリケーションを開発。

休憩（30分）

第2部 講演 (16:00-17:00)

講演者：赤野一郎先生（京都外国語大学名誉教授）

演題：学習英和辞典における意味記述—コーパス言語学の視点から

要旨：辞書編纂学は言語研究から得られた知見を取り入れながら進歩してきた。日本の学習英和辞典も、英語教育の現場を考慮しつつ英文法研究・語法研究の数多くの成果を取り込んできた。本発表では、コーパス言語学の「語の意義は形によって識別され、語の形が意義を決定する」、「語は単独で使われるのではなく、複数の語が意味的にひとかたまりのものとして選択される」という慣用連語 (**phraseology**) の考え方をもとに、コーパス言語学の分析手法を用いれば辞書における語の意味記述がいかに精密化できるかを示す。

講演者：赤野一郎先生

略歴：1949年生まれ。1972年神戸市外国語大学英米学科卒業。1975年同大学院修士課程修了。1990年バーミンガム大学客員研究員。2006年名古屋大学大学院国際開発研究科客員研究員。現在、京都外国語大学名誉教授。

専門分野：英語語法研究、英語辞書学。

編著書：『ウィズダム英和辞典』（共編、三省堂、2003; 2007; 2013）、『言語学の領域Ⅱ』（共著、朝倉出版、）、『英語コーパス言語学—基礎と実践』（共編著、研究社、1998; 2005）『英語教師のためのコーパス活用ガイド』（共編、大修館書店、2014）、論文：「語彙研究とコーパス」（『英語青年』149.11）、「辞書編纂におけるコーパス利用」（『英語青年』153.12）、「辞書とコロケーション」（堀正広編『これからのコロケーション研究』）

多くの方々のご来場をお待ちしております。ふるってご参加下さい。

懇親会 シンポジウム終了後、18時頃～

場所：日常酒飯事「わこう」

563-0032 大阪府池田市石橋 1-22-15 TM ビル 1F 072-763-3345

阪急宝塚線 石橋駅 徒歩5分 阪大豊中キャンパスより徒歩10分ほど

<http://r.gnavi.co.jp/kadc300/>

会費：5,000円